

第183回「元気に百歳」クラブ 俳句サロン「道草」開催

私たちの「元気に百歳」クラブ誌20号が、先月末に届けられました。クラブ誌は今回で終刊になることから、ことのほか丁寧に見入っている昨今です。住田道人先生選による私たち「道草」仲間の「競詠句抄」は、今回も19名の104句が揃いました。クラブ誌上での競詠はこれで終わりますが、皆さん、俳句サロン「道草」での競詠は、これからも引き続き元気に続けていきたいと思います。

来月11月の俳句サロン「道草」は、ここ数か月、ご報告してきましたように、不思議なご縁から行田市の長光寺で、東京兵庫県人会俳句サロン「道草」と合同での吟行を開催致します。9月16日は、住田先生、君塚明峰さんと白然が、第21回「川島奇北忌俳句大会」に参加し、行田市俳句連盟の皆さんと顔合わせをして参りました。今日も句会の前に、住田先生、君塚明峰さんと、合同吟行当日（11月20日）のタイム・スケジュールやお弁当持参などを確認させていただきました。折角の合同吟行ですから、是非とも無理のない準備で臨みたいですね。

10月4日（金）、本日の「道草」ご出席は、芦川創風さん、井上蒼樹さん、奥田和感さん、金田月草さん、君塚明峰さん、高瀬荻女さん、辻柴楽さん、中島懂岳さん、本間傘吉さん、森田多佳さんと芦尾白然の11名です。欠席投句は、板倉歌多音さん、上田枯葉さん、住田幸佳さん、船戸清助さんの4名が参加して下さいました。そして今日もまた、明峰さんから草月庵の銘菓「黒松」の差し入れを頂戴しました。明峰さんいつも有難うございます。

住田先生は、開講の冒頭で、先日の「奇北忌俳句大会」の様子を、応募された全句を資料として配布、説明して下さいました。これで21回目の大会になること、行田市俳句連盟の会長さんもお挨拶で仰っていましたが、こうした大会には「類句」への配慮を怠らないことを教えて下さいました。そして「今日は、これで詠んで下さい」と、下述の席題を提示されました。皆さんがしーんとなって季語に向かわれ、句を詠まれ、そして選句された天賞句と最多得票賞（☆印）句は、次の通りです。

席題1. 「新米」又は「今年米」

◎『新米や里帰りせし娘炊く』	懂岳	天1
◎『新米の故郷いずこ競い合う』	創風	天1
◎『嘯むほどに故郷自慢の今年米』	傘吉	☆5
◎『天下一これ新米のにぎり飯』	白然	☆5

席題2. 「冬支度」

◎『冬支度捨てることから始めけり』	明峰	天1☆7
◎『南窓の透きとほりたり冬支度』	多佳	天1
◎『晴れし日は妻のはじむる冬支度』	白然	天1
◎『松の木にこも巻きつけて冬支度』	創風	天1

席題3. 当季雑詠の自由題句

◎『真直ぐにここに居ますと曼珠沙華』	和感	天2
◎『川の上に散る白萩や織る白布』	白然	天2
◎『いつの間に早や秋の日は暮れにけり』	歌多音（投句）	天1
◎『食卓の料理が変わり秋に入る』	創風	天1
◎『遠州路湖上臥待露天風呂』	傘吉	☆4

（道人の一句）

今年米先ずお内仏に供へけり 住田道人

席題1. では、懂岳さんの句「新米や里帰りせし娘炊く」が、天賞一つを獲得されました。父親には里帰りしてきたお嬢さんが頼もしく見えるときがあります。新米を炊いてく

れるそのお嬢さんに「乾杯！」という句に思えます。新米がお嬢さんを輝かせてくれました。次に創風さんの句「新米の故郷いずこ競い合う」も、天賞一つを獲得しました。私たちは普段、米の生産地、つまりその故郷を気にします。「あきたこまち」「はえぬき」「こしひかり」などなどです。そんな産地を問う詠み手の姿が、選者の共感を得たのだと思います。最多得票賞（☆印）は2句が並びました。傘吉さんの句「嘔むほどに故郷自慢の今年米」がその一句、この句は、嘔むほどに美味なる故郷の今年の米、これを自慢している景が、選者に見えたのではないのでしょうか。もう一句は、白然の句「天下一これ新米のにぎり飯」です。今回の季語で、「握り飯」を詠んだ句が3句ありました。「新米」「今年米」で、発想する景として、まだまだ磨きが足りません。

席題2. では、明峰さんの句「冬支度捨てることから始めけり」が、天賞一つと最多得票賞（☆印）に輝きました。この句の中七、下五に言いきった「捨てることから始めけり」は、選者のみならず読者は、老いて鈍った脳細胞をコツンと叩かれた気になったのではないのでしょうか。見事です。次に多佳さんの句「南窓の透きとほりたり冬支度」も、天賞一つと高得票を獲得しました。掃除の行き届いた南側の窓も透き通り、着々と冬支度が進んでいる完璧さを読者に想像させます。スッキリした句になりました。創風さんの句「松の木にこも巻きつけて冬支度」も、天賞一つを獲得しました。手当ての行き届いた庭園の冬直前の風物詩ですね。白然の句「晴し日は妻のはじむる冬支度」も天賞一つをいただきました。

席題3. 自由題句では、和感さんの句「真直ぐにここに居ますと曼珠沙華」が、天賞二つを獲得しました。この句は真白の曼珠沙華であれ、真赤な曼珠沙華であれ、あのすっと伸びた長い茎の先に、パッと広がった花の姿を見事に詠んでいます。中七の表現「ここに居ますと」がピッタリでした。白然の句「川の上に散る白萩や織る白布」も天賞二つをいただきました。小さな白萩の花の流れが、まるで白布のようでした。次に投句の歌多音さんの句「いつの間に早や秋の日は暮れにけり」が、天賞一つを獲得しました。お仕事ご多忙なる歌多音さん的一天です。「秋の日はつるべ落し」と言われる秋の一日、このお気持ちちはわかりますね。次は創風さんの句「食卓の料理が変わり秋に入る」も、天賞一つを獲得しました。この句は中七の「料理が変わり」が、句全体を見事に表現しました。選者も納得しての一票だったでしょう。最多得票賞（☆印）は、傘吉さんの句「遠州路湖上臥待露天風呂」の全漢字句の上に輝きました。先日行かれた「浜松ツアー」の思い出を詠まれた句でしょう。露天風呂に身体を伸ばしてご夕食の一杯でも待たれておられたのでしょうか。今回の自由題句は、全句に票が入るといふ「句力」伯仲の大熱戦でした。しかも得票3票句が7句もありました。これは新記録ではないのでしょうか。

二次会は、先月と同じ洋酒居酒屋ローズ&クラウン新橋店にお邪魔しました。10月はもう一度、16日に集まりがあります。明峰さんが設定して下さった東京兵庫県人会の「道草」仲間との合同懇親会が、浅草の「今半」であります。来月、11月の「合同吟行」のための懇親会です。明峰さんお気遣いをいただき有難うございます。記憶に残る「合同吟行」になるよう準備を進めたいと思います。この「今半」での合同懇親会が、楽しい集いになることを祈念しています。皆さんよろしくお願ひします。

白然記